

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 及び中上級日本語教科書における 複合動詞の出現頻度

何 志明

●要旨

日本語の複合動詞は習得が難しいものの一つであると言われている。本稿は、これから複合動詞を導入するために必要とされるシラバスや教材作成に向けて、現在の複合動詞の使用状況を考察する。本稿では大規模な日本語書き言葉コーパスと近年（2000年以降）出版された中上級日本語教科書に収録されている複合動詞の出現頻度を調査した。その結果、コーパスを通して出現頻度の高い複合動詞と近年の教科書に採用されている複合動詞を特定することができた。本研究は今後限られた授業時間の中で優先的に教えたほうがよいと思われる複合動詞の選定基準を、出現頻度を条件として考慮することを提案する。

●キーワード

複合動詞、コーパス、出現頻度、教科書、シラバス

●ABSTRACT

Japanese compound verb is regarded as one of the most difficult items to master in Japanese language learning. This paper aims to examine current usage of compound verbs for its introduction in syllabus and teaching materials. For this paper, the frequency of appearance of compound verbs in BCCWJ (a major corpus specializing in written Japanese language) and selected intermediate/advanced Japanese-language textbooks published after the year 2000 are examined. The aim of the study is to identify compound verbs with a high frequency of appearance in BCCWJ and selected Japanese language textbooks. The findings in this paper provide significant inputs on how to prioritize the teaching of compound verbs within limited classroom teaching hours.

●KEY WORDS

Compound Verb, Corpus, Frequency of Appearance, Textbook, Syllabus

Japanese Compound Verbs

A study of its frequency of appearance in the “Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese (BCCWJ)” and selected intermediate/advanced Japanese language textbooks

HO CHI MING

1 はじめに

日本語学習者にとって、複合動詞は習得が難しいものの1つであると言われている。何(2009)は、香港の日本語学習者35名(日本語能力試験1級・2級合格者)を調査した結果、多くが複合動詞の指導方法を改善すべきであると指摘している(34人)と報告している。さらに、複合動詞を使いたくても使えない、複合動詞は非常に難しいので積極的に使いたくない、日本語教師に複合動詞を教えてもらったことがない、といった意見が出ている。このように、学習者にとっても教師にとっても複合動詞は敬遠されている学習項目の1つである。本稿は、先行研究における複合動詞の習得についての考え方を見直し、実際に日本語母語話者が使用している複合動詞とは何かという観点から、学習者に(最小限)必要な複合動詞を導入することを提案し、優先的に教えなければならない複合動詞を探る。すべての複合動詞を習得するのではなく、選択的に習得することにより、学習意欲を高め、効率的に複合動詞を習得することを目指す。また、日本語教育における複合動詞の取り扱いについて、市販の中級及び上級日本語教科書に掲載されている複合動詞を調査し、どのような複合動詞が取り上げられているかを考察する。

2 先行研究

松田(2004:2)では、「複合動詞の結合条件」、「単純動詞と複合動詞の使い分け」、「習得方法」の3点が学習者にとって習得の困難点であると述べている。松田(2004)で指摘されている点が複合動詞の習得に困難をもたらしている要因といえる。このような複合動詞習得の問題点に応じた打開策を講じなければならない。何(2010a)は、コーパスの使用頻度が高い複合動詞例を利用して、学習者の習得状況を調査し、何(2010b)は、今までの先行研究では実施していなかった学習者の複合動詞全体の習得に注目し、学習者が複合動詞をどれくらい理解しているかアンケート調査で調べ、複合動詞の理解及び使用実態を検証した。この2つの研究結果により、学習者による複合動詞の習得状況及び誤用

の実態が明らかになった。しかし、時間的な制限や学習意欲の低下などの理由で膨大な数の複合動詞をすべて教えることができず、先に教えなければならない複合動詞、いわゆる導入の優先順位を決める手がかりはまだ見つけられていない。田中(1996,2004)では、複合動詞は日本語の教科書の学習項目としてはほとんど取り上げられていないと指摘しているが、先行研究の指摘通り現在の日本語教科書でも複合動詞はあまり取り上げられていないのだろうか。もし取り上げられているのなら、どのような複合動詞が取り上げられているのだろうか。森(2011:57)では、初級で教えるべき文法項目について、学習者の習得状況を考慮して必要な項目や定着しにくい項目を探すことは日本語教育文法にとって有益な分析であるが、その前に「そもそも日本人が使っているのか」ということを明らかにする必要があると指摘している。筆者は文法項目だけでなく、複合動詞のような語彙の習得についても同じようなことが言えると考え。つまり、限られた授業時間の中で、学習者には一般的に使用頻度の高い複合動詞を教えるほうがより効果的ではないかということである。教科書にどのような複合動詞が掲載されているかを考察することによって、これからの複合動詞を教えるシラバス作り、教材作りのために役に立つ基礎研究のデータを提供することができるのである。

3 本稿の目的

本稿の目的は先行研究では言及されていない複合動詞導入の優先順位を決める手がかりを探ることである。石井(2007)によると、複合動詞の数は2,494語に上っている。確かに、すべての複合動詞を習得するのは無理があり、またその中には日本語母語話者もあまり使用していないものが含まれているので、せっかく習っても使う機会がない場合もあると考えられる。複合動詞の習得を促進するためには、まず日本語母語話者がよく使用する複合動詞を洗い出す必要がある。本稿では複合動詞の例を収集するため、Yahoo!知恵袋、白書、書籍、新聞の4つのジャンルを収録している、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所が開発した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』モニター公開データ2009年度版(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese。以下、BCCWJ)2009

と呼ぶ)を利用することにした。BCCWJ 2009には日本語母語話者がよく使っている書き言葉のデータが大量に収録されているため、日本語母語話者の一般的な書き言葉の使用のモデルとみなせるからである。さらに、現在日本語教育では複合動詞がどのように扱われているかを明らかにするため、市販の日本語教科書(中級及び上級)に掲載されている複合動詞を調査する。

4 調査方法と手順

4.1 BCCWJ 2009の調査

まず石井(2007:363-409)の資料1「既成の複合動詞造語成分の連接表」の2,494語から、4種類の辞書・資料(GSIK)^[註1]のすべてに入っている複合動詞を約1,200語選び出した。4種類の辞書・資料(GSIK)のすべてに入っている複合動詞は一般的に認識度や使用頻度が比較的高いと考えられるからである。次に、選び出された約1,200語すべてをBCCWJ 2009で検索し、それぞれの複合動詞の使用頻度をチェックした。さらに使用頻度がもっとも高いトップ10%の120語を選出した。これからの日本語教育における複合動詞のシラバスを考える時、可能な限り学習者の負担を軽減するため、まずは最もよく使用されている複合動詞のトップ10%程度を学習者が学ぶようにすればよいのではないかという筆者の考えから、10%、120語という数字を提示した。

4.2 中上級日本語教科書の調査

現在市販されている中・上級日本語教科書を6種類選出し、索引または語彙リストに掲載されている複合動詞をすべて調査した。選出した教科書は下記の通り(出版年の古い順)である。

- a 書名:『日本語中級JS01—中級から上級へ—』(以下、JS01)
出版社/出版年:スリーエーネットワーク, 2001年
- b 書名:『上級日本語教科書 文化へのまなざし』(以下、まなざし)
出版社/出版年:東京大学出版会, 2005年

- c 書名:『中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期』(以下、中56)
出版社/出版年:スリーエーネットワーク, 2007年
- d 書名:『みんなの日本語 中級I』(以下、MI1)
出版社/出版年:スリーエーネットワーク, 2009年
- e 書名:『上級へのとびら コンテンツとマルチメディアで学ぶ日本語』(以下、とびら)
出版社/出版年:くろしお出版, 2009年
- f 書名:『ニュースの日本語 聴解50』(以下、ニュース)
出版社/出版年:スリーエーネットワーク, 2010年

近年の教科書における複合動詞の扱い方を考察するため、初版が2000年以降のものを選出した。

5 調査結果

5.1 BCCWJ 2009の調査結果

上記の4.1で示した方法で選出した120語の複合動詞(V1+V2)を、出現頻度の高い順に表1に示す。また、120語の中で、前項動詞(V1)、後項動詞(V2)別に見た出現頻度を、高い順にそれぞれ表2、表3に示す。検索した際、表記のゆれ、つまり、「申し上げる/申しあげる/もうし上げる/もうしあげる」や「ない形」、「ます形」、「命令形」、「推量形」などの文法項目による語尾変化などを全部カウントした。具体的な検索方法として、表記における各種の組み合わせ(「漢字+漢字」、「漢字+仮名」、「仮名+漢字」、「仮名+仮名」)を語幹まで入力し(「取り出す」の場合:「取り出」、「取りだ」、「とり出」、「とりだ」)、該当する複合動詞の出現数をカウントするという方法で結果を確認した。

表1 出現頻度 290以上のV1+V2

順位	V1+V2						
1	申し上げる (7323) ※	31	話し掛ける (748)	61	知り合う (488)	91	積み上げる (366)
2	思い出す (3635)	32	見成す (746)	62	受け継ぐ (475)	92	吐き出す (365)
3	繰り返す (3186)	33	取り扱う (737)	63	盛り上がる (453)	93	出向く (358)
4	受け取る (2723)	34	取り巻く (732)	64	追い付く (450)	94	閉じ込める (353)
5	見付ける (2708)	35	見守る (731)	65	組み込む (449)	95	見極める (352)
6	付き合う (2587)	36	入り込む (727)	66	取り込む (447)	96	見知る (346)
7	見詰める (2447)	37	思い付く (720)	67	追い込む (446)	97	申し出る (345)
8	取り組む (2417)	38	思い切る (718)	68	抱き締める (445)	98	押し込む (344)
9	出掛ける (2401)	39	思い込む (707)	69	持ち上げる (442)	99	切り出す (344)
10	取り上げる (2354)	40	付け加える (704)	70	突き出す (430)	100	受け付ける (340)
11	受け入れる (2033)	41	作り上げる (689)	71	浮かび上がる (428)	101	読み取る (339)
12	立ち上がる (1933)	42	呼び掛ける (678)	72	踏み込む (428)	102	見渡す (338)
13	出会う (1661)	43	引き起こす (675)	73	取り付ける (423)	103	取り消す (337)
14	振り返る (1659)	44	組み合わせ (656)	74	向き合う (415)	104	引きずる (331)
15	取り出す (1527)	45	追い掛ける (636)	75	切り替える (413)	105	立ち寄る (330)
16	受け止める (1165)	46	乗り出す (610)	76	落ち付く (408)	106	問い掛ける (330)
17	見掛ける (1098)	47	見回す (595)	76	問い合わせる (408)	107	見抜く (329)
18	結び付く (1086)	48	振り向く (592)	76	引き取る (408)	108	見合わせる (328)
19	飛び出す (1061)	49	引き出す (584)	79	見当たる (404)	109	突き付ける (325)
20	成り立つ (987)	50	駆け付ける (578)	80	握り締める (403)	110	取り合う (323)
21	作り出す (964)	51	持ち込む (577)	81	打ち込む (393)	111	追い出す (322)
22	見上げる (960)	52	結び付ける (565)	82	見合う (391)	112	立ち去る (317)
23	取り入れる (943)	53	打ち出す (552)	83	追い詰める (386)	113	睨み付ける (316)
24	飛び込む (866)	54	組み合わせる (544)	84	見張る (381)	114	押し寄せる (309)
25	取り入る (857)	55	似合う (540)	85	取りまとめる (378)	114	踏み出す (309)
26	押し付ける (833)	55	見送る (540)	86	引き継ぐ (375)	116	働き掛ける (302)
27	引き受ける (832)	57	乗り越える (534)	87	引き返す (374)	117	振り替える (301)
28	見直す (797)	58	見下ろす (513)	88	し切る (373)	118	送り込む (300)
29	引き上げる (796)	59	立ち止まる (508)	89	飲み込む (372)	119	組み立てる (295)
30	取り戻す (791)	60	言い切る (501)	90	取り掛かる (371)	120	呼び出す (292)

※括弧の中の数字はBCCWJ 2009の調査において該当する複合動詞の出現頻度

表2 異なり語数3以上のV1

順位	V1 ~	複合動詞例
1	見~ (19) #	見合う、見上げる、見当たる、見合わせる、見送る、見下ろす、……
2	取り~ (14)	取り合う、取り上げる、取り扱う、取り入る、取り入れる、取り掛かる、……
3	引き~ (8)	引き上げる、引き受ける、引き起こす、引き返す、引きずる、引き出す、……
4	受け~ (5)	受け入れる、受け継ぐ、受け付ける、受け止める、受け取る
4	追い~ (5)	追い掛ける、追い込む、追い出す、追い付く、追い詰める
6	思い~ (4)	思い切る、思い込む、思い出す、思い付く
6	立ち~ (4)	立ち上がる、立ち去る、立ち止まる、立ち寄る
6	組み~ (4)	組み合う、組み合わせる、組み込む、組み立てる
9	押し~ (3)	押し込む、押し付ける、押し寄せる
合計	66	# 括弧の中の数字は該当する前項動詞V1の異なり語数

表3 異なり語数3以上のV2

順位	~ V2	複合動詞例
1	~出す (13) ◎	打ち出す、追い出す、思い出す、切り出す、突き出す、作り出す、飛び出す、……
2	~込む (12)	入り込む、打ち込む、追い込む、送り込む、押し込む、思い込む、組み込む、……
3	~付ける (8)	受け付ける、押し付ける、駆け付ける、突き付ける、取り付ける、睨み付ける、……
4	~合う (7)	組み合わせる、知り合う、付き合う、取り合う、似合う、見合う、向き合う
4	~上げる (7)	作り上げる、積み上げる、取り上げる、引き上げる、見上げる、持ち上げる、……
4	~掛ける (7)	追い掛ける、出掛ける、問い掛ける、働き掛ける、話し掛ける、見掛ける、呼び掛ける
7	~付く (4)	追い付く、落ち付く、思い付く、結び付く
8	~上がる (3)	浮かび上がる、立ち上がる、盛り上がる
8	~合わせる (3)	組み合わせる、問い合わせる、見合わせる
8	~切る (3)	言い切る、思い切る、し切る
8	~取る (3)	受け取る、引き取る、読み取る
合計	70	◎ 括弧の中の数字は該当する後項動詞V2の異なり語数

表1の複合動詞には、表2と表3で示した通りそれぞれ異なり語数を多く持っているV1 (V2) の組み合わせが見られる。これらの組み合わせはコーパスに頻繁に現れている複合動詞であり、つまり日本語母語話者がよく使っているということなので、優先的に学習者に教える必要がある。

5.2 中上級日本語教科書の調査

本研究で調査した日本語教科書6種類に掲載されている複合動詞の数（異なり語数）と出現頻度の高い順は下記の通りである。

書名	異なり語数
『J501』	113
『まなざし』	90
『中56』	24
『M11』	27
『とびら』	27
『ニュース』	24

教科書に採用されている複合動詞の内訳は以下のようにまとめられる（括弧の中の数字はBCCWJ 2009の調査において該当する複合動詞の出現頻度）。

出現回数	異なり語数	複合動詞例
5回	1	取り入れる
4回	1	落ち着く
3回	7	取り上げる、引き受ける、思い込む……
2回	32	取り組む、受け入れる、作り出す……
1回	211	思い出す、受け取る、見上げる……

【5種類の教科書に採用されている複合動詞】計1語：取り入れる（943）

【4種類の教科書に採用されている複合動詞】計1語：落ち着く（408）

【3種類の教科書に採用されている複合動詞】計7語：

取り上げる（2354）、引き受ける（832）、付け加える（704）、引き起こす（675）、落ち込む（633）、打ち出す（552）、生まれ変わる（186）

【2種類の教科書に採用されている複合動詞】計32語：

繰り返す（3186）、付き合う（2587）、取り組む（2417）、受け入れる（2033）、飛び出す（1061）、作り出す（964）、押し付ける（833）、思い込む（707）、追いかける（636）、組み合わせる（544）、受け継ぐ（475）、追い込む（446）、浮かび上がる（428）、思い浮かべる（428）、見極める（352）、押し込む（344）、引越す（326）、泣き出す（304）、聞き取る（291）、決めつける（250）、繰り返す（249）、投げかける（246）、使い分ける（194）、聞き返す（193）、盛り上げる（169）、思い浮かぶ（165）、切り捨てる（162）、割り切る（159）、思い返す（143）、押しつぶす（85）、噛み付く（81）、並べ替える（37）

【1種類の教科書にしか採用されていない複合動詞】計211語：

思い出す（3635）、受け取る（2723）、見つける（2708）、見つめる（2447）、引っ張る（1113）、見かける（1098）、結びつく（1086）、話し合う（1034）、見上げる（960）、突っ込む（803）、見直す（797）、引き上げる（796）、取り戻す（791）、話し掛ける（748）、取り扱う（737）、入り込む（728）、思い行く（720）、たどり着く（696）、作り上げる（689）、呼び掛ける（678）、覗き込む（649）、持ち出す（649）、でき上がる（618）、乗り出す（610）、逃げ出す（592）、引き出す（584）、言い換える（578）、持ち込む（577）、取り除く（567）、乗り越える（534）、知り合う（488）、追いつく（450）、組み込む（449）、取り込む（447）、歩き出す（445）、抜け出す（431）、取り付ける（423）、向き合う（415）、打ち明ける（413）、引き取る（408）、見合う（391）、差し上げる（384）、取りまとめる（378）、引き継ぐ（375）、引き返す（374）、持ち帰る（374）、飲み込む（372）、考え込む（362）、申し出る（345）、読み取る（339）、取り消す（337）、見合わせる（328）、立ち去る（317）、送り込む（300）、呼び出す（292）、当てはまる（290）、立ち直る（266）、突き止める（266）、巻き込む（256）、あてはめる（250）、ひっかかる（241）、見込む（230）、惹き付ける（228）、乗っ取る（225）、考え直す（219）、探し出す（219）、忍び込む（213）、通りかかる（211）、見分ける（211）、書き上げる（209）、

笑い出す (208)、取り残す (207)、立ち向かう (206)、追いやる (205)、寄り添う (204)、触れ合う (197)、ひっくり返す (190)、飛び上がる (184)、切り開く (181)、振り回す (180)、掻き立てる (175)、はみ出す (175)、読み上げる (175)、かけ離れる (173)、読み返す (168)、取り立てる (167)、思い描く (166)、重なり合う (165)、持ち歩く (164)、推し進める (162)、売り出す (146)、寄りかかる (146)、押し上げる (145)、思い詰める (145)、引き締める (145)、飛び回る (144)、使いこなす (143)、迎え入れる (141)、駆り立てる (137)、持ち上がる (137)、買い換える (133)、助け合う (132)、突き進む (130)、押しのける (129)、見捨てる (128)、書き換える (125)、のめり込む (123)、取り直す (120)、愛し合う (113)、仕上がる (112)、住み着く (110)、打ち解ける (108)、分かち合う (107)、通り越す (106)、抜き出す (106)、満ち溢れる (106)、追いつく (105)、話し出す (103)、かけ抜ける (101)、駆け上がる (97)、信じ込む (97)、使い切る (96)、跳ね上がる (96)、読み始める (95)、書き続ける (94)、降り出す (89)、掘り起こす (89)、吸い取る (87)、乗り入れる (87)、編み出す (84)、押し進める (83)、行き着く (83)、押し通す (82)、引き入れる (80)、置きかえる (79)、送り返す (79)、巻き起こす (78)、引きこもる (76)、満ち足りる (72)、かけまわる (68)、使い果たす (68)、咲き乱れる (66)、立ちふさがる (66)、待ち合わせる (64)、誘い出す (63)、買い入れる (62)、押し返す (61)、切り詰める (60)、つき合わせる (60)、躍り出る (59)、突っつく (59)、話し続ける (59)、貸し出す (58)、通い始める (57)、指し向ける (57)、すり替える (56)、積み重なる (56)、乗り遅れる (55)、のぼりつめる (54)、引き延ばす (54)、溶け出す (49)、食い下がる (48)、つけ始める (46)、かけ直す (45)、追い続ける (44)、し続ける (43)、読みふける (42)、呼び合う (37)、書き加える (36)、渡り合う (35)、見くびる (34)、咲き誇る (33)、運び入れる (32)、見逃す (31)、盛り返す (31)、埋め合わせる (30)、取り揃える (29)、押し止める (28)、抱き続ける (26)、落ちこぼれる (26)、看取る (26)、引き分ける (24)、引き合う (23)、担ぎ出す (22)、燃えたつ (22)、いきりたつ (21)、打ち下ろす (21)、買いとる (20)、押し出す (19)、掘り当てる (19)、はい上がる (18)、照り輝く (16)、読み切る (16)、成り代わる (15)、競り落とす (14)、溶け

合う (14)、使い捨てる (10)、述べ合う (10)、生き切る (8)、走り切る (7)、響き続ける (7)、綴じ込む (5)、入り組む (4)、太り始める (2)、編み直す (1)、請け負う (1)、避け合う (1)、綴じあわせる (1)、兼ね備わる (0)、刻み出す (0)、吹き変える (0)

6 調査結果の考察

6.1 BCCWJ 2009の調査結果

「申し上げる」、「繰り返す」、「見付ける」、「出掛ける」のような、すでに一体化していると考えられる動詞を除いても、出現頻度の高い、つまりよく使用されている複合動詞が多数存在することが確認できる。そのうち、前項動詞で異なり語数が3以上の複合動詞は66語で、後項動詞で異なり語数が3以上の複合動詞は70語である。上記の4.1で示した方法で選出した使用頻度がもっとも高いトップ10%の120語のうち、出現頻度が1,000回を超えた語は19語 (15.83%)で、500回を超えた語は60語 (50%)である。本研究ではBCCWJ 2009のような大規模コーパスで現在よく使用されている複合動詞を特定し、これから日本語教育において優先的に導入したほうがよいと思われる複合動詞の選定基準を提案したい。

6.2 中上級日本語教科書の調査

調査対象とした6種類の教科書にある複合動詞の異なり語数と延べ語数はそれぞれ252語と309語である。252語の異なり語の複合動詞のうち、出現頻度が1,000回を超えた語は14語 (5.56%)で、500回を超えた語は47語 (18.65%)である。また、252語の異なり語のうち、石井 (2007) の「既成の複合動詞造語成分の連接表」にある4種類の辞書・資料 (GSIK) のすべてに入っている複合動詞は144語 (57.14%)しかない。教科書に採用されている複合動詞の中で出現頻度の高いもの (出現頻度300回以上) を表4に示す。

表4 中上級日本語教科書に採用されている複合動詞（出現頻度300回以上）

順位	V1 (読み)	V2 (読み)	V1 (書き)	V2 (書き)	書名	頻度※	教科書※※
001	おもい	だす	思い	出す	とびら	3635	1
002	くり	かえす	繰り	返す	中56	3186	2
003	うけ	とる	受け	取る	中56	2723	1
004	み	つける	見	つける	とびら	2708	1
005	つき	あう	つき	合う	JS01	2587	2
006	み	つめる	見	つめる	とびら	2447	1
007	とり	くむ	取り	組む	中56	2417	2
008	とり	あげる	取り	上げる	JS01	2354	3
009	うけ	いれる	受け	入れる	JS01	2033	2
010	ひっ	ばる	引っ	張る	まなざし	1113	1
011	み	かける	見	かける	M11	1098	1
012	むすび	つく	結び	つく	とびら	1086	1
013	とび	だす	飛び	だす	中56	1061	2
014	はなし	あう	話し	合う	M11	1034	1
015	つくり	だす	作り	出す	JS01	964	2
016	み	あげる	見	上げる	中56	960	1
017	とり	いれる	取り	入れる	M11	943	5
018	おし	つける	押し	つける	JS01	833	2
019	ひき	うける	引き	受ける	M11	832	3
020	つっ	こむ	突っ	込む	JS01	803	1
021	み	なおす	見	直す	JS01	797	1
022	ひき	あげる	引き	上げる	JS01	796	1
023	とり	もどす	取り	戻す	とびら	791	1
024	はなし	かける	話し	かける	M11	748	1
025	とり	あつかう	取り	扱う	JS01	737	1
026	はいり	こむ	入り	込む	JS01	728	1
027	おもい	つく	思い	つく	まなざし	720	1
028	おもい	こむ	思い	込む	JS01	707	3
029	つけ	くわえる	付け	加える	M11	704	3
030	たどり	つく	辿り	着く	まなざし	696	1
031	つくり	あげる	作り	上げる	JS01	689	1
032	よび	かける	呼び	掛ける	ニュース	678	1
033	ひき	おこす	引き	起こす	M11	675	3
034	もち	だす	持ち	出す	JS01	649	3
035	のぞき	こむ	覗き	込む	まなざし	649	1
036	おい	かける	追い	かける	M11	636	2
037	おち	こむ	落ち	込む	JS01	633	3
038	でき	あがる	でき	上がる	JS01	618	1
039	のり	だす	乗り	出す	ニュース	610	1
040	にげ	だす	逃げ	出す	JS01	592	1

041	ひき	だす	引き	出す	JS01	584	1
042	いい	かえる	言い	換える	JS01	578	1
043	もち	こむ	持ち	込む	中56	577	1
044	とり	のぞく	取り	除く	まなざし	567	1
045	うち	だす	打ち	出す	JS01	552	3
046	くみ	あわせる	組み	合わせる	M11	544	2
047	のり	こえる	乗り	越える	JS01	534	1
048	しり	あう	知り	合う	JS01	488	1
049	うけ	つく	受け	継ぐ	まなざし	475	2
050	おい	つく	追い	つく	まなざし	450	1
051	くみ	こむ	組み	込む	まなざし	449	1
052	とり	こむ	取り	込む	まなざし	447	1
053	おい	こむ	追い	込む	まなざし	446	2
054	あるき	だす	歩き	出す	JS01	445	1
055	ぬけ	だす	抜け	出す	JS01	431	1
056	うかび	あがる	浮かび	上がる	JS01	428	2
057	おもい	うかべる	思い	浮かべる	まなざし	428	2
058	とり	つける	取り	付ける	M11	423	1
059	むき	あう	向き	合う	M11	415	1
060	うち	あける	打ち	明ける	中56	413	1
061	おち	つく	落ち	着く	M11	408	4
062	ひき	とる	引き	取る	JS01	408	1
063	み	あう	見	合う	まなざし	391	1
064	さし	あげる	差し	上げる	M11	384	1
065	とり	まとめる	取り	まとめる	ニュース	378	1
066	ひき	つく	引き	継ぐ	ニュース	375	1
067	ひき	かえす	引き	返す	JS01	374	1
068	もち	かえる	持ち	帰る	中56	374	1
069	のみ	こむ	飲み	込む	JS01	372	1
070	かんがえ	こむ	考え	込む	JS01	362	1
071	み	きわめる	見	極める	まなざし	352	2
072	もうし	でる	申し	出る	M11	345	1
073	おし	こむ	押し	込む	JS01	344	2
074	よみ	とる	読み	取る	M11	339	1
075	とり	けす	取り	消す	M11	337	1
076	み	あわせる	見	合わせる	ニュース	328	1
077	ひっ	こす	引っ	越す	M11	326	2
078	たち	さる	立ち	去る	JS01	317	1
079	なき	だす	泣き	出す	JS01	304	2
080	おくり	こむ	送り	込む	まなざし	300	1

※ 頻度：BCCWJ 2009の調査において該当する複合動詞の出現頻度
 ※※ 教科書：該当する複合動詞を採用している教科書の種類

これまで複合動詞の指導において、膨大な数の複合動詞の中から日常生活でよく使用されているものを選別して効率的に学習者に教えることは難しかったが、本研究の結果により、今後複合動詞を導入する際、日本語母語話者がよく使用する、すなわち学習者が知っておいたほうがよいものはどれかという観点から優先的に教えるべき複合動詞のリストを作成することが可能になった。森(2011: 59)の指摘通り、使用頻度は、日本語母語話者がどれくらい該当の項目を使っているかという実態を調べるために必要な参考情報であり、ただ単に勘で項目を選ぶことからの脱却の手がかりとなる。

7 日本語教育への活用

今後、本研究の成果を次のように日本語教育に活用することができると考えられる。

7.1 複合動詞指導のためのシラバス作り

複合動詞の指導のために、何よりもまず学習者のレベルに合わせて複合動詞指導のためのシラバスを作成しなければならない。有効な複合動詞の導入のため、導入する複合動詞を選ばなければならない。複合動詞は数が多いだけでなく、意味も使い方も習得が難しいものがあるので、習得が簡単なものから難しいものへと分類して整理する必要がある。そのために、本研究で明らかになった、コーパスに出現する複合動詞を網羅するデータが不可欠である。

7.2 辞書・教材の作成

学習者にしてみれば、大量の複合動詞の効率的な習得順序が示されないまま一気に消化しなければならず、複合動詞の学習意欲を促すための目的がうまく達成できるかどうかについては疑問が残る。この問題を解決するために、上記の調査結果をはじめ、コーパス資料と教科書に出ている出現頻度の高い複合動詞を整理し、学習者にとって分かりやすい複合動詞の辞書と教材を作成する必要がある。

日本語母語話者が実際使用している複合動詞のデータを使用頻度の観点でコーパスから検出することによって、よりの確に母語話者の複合動詞使用を反映した教材を作ることができると考えられる。さらに、学習者にとって単語そのものの使い方だけでなく、その単語と共起する語彙は知っておかなければならない重要な知識である^[註2]。コーパスは、コロケーションや類義語といった語法研究を大きく進展させる力強い武器である(砂川2010: 106)。そのため、複合動詞そのものの使い方だけでなく、その関連語彙の知識も同時に学習者に紹介することが可能になる。例えば、「取り調べる」の場合、単純動詞(または単独動詞)の「調べる」と違って、一緒に共起できる目的語は「辞書」や「情報」のような「物」ではなく、「容疑者」や「犯人」のように「犯罪を犯した(または犯したと疑われる)人」でなければならない。将来複合動詞の辞書を作成する際、複合動詞の意味と使い方をはじめ、関連語彙と共起する助詞の使い方も学習者にとって重要な情報になる。

8 まとめ

本稿は、大規模な書き言葉コーパスを利用して、実際に使われている複合動詞の出現頻度について調査した。本稿の調査結果が、これからの複合動詞教材作成の一助になることを願っている。

〈香港中文大学〉

注

[注1] …… G:『学研国語大辞典(初版)』

S:『新明解国語辞典(第三版)』

I:『岩波国語辞典(第二版)』

K:『国立国語研究所資料集7 動詞・形容詞問題語用例集』

[注2] …… 砂川(2010: 106)では下記のように指摘している。

語彙の習得は外国語学習にとって重要な課題であるが、いくら多くの単語を覚えたとしても、その使い方を知らなければ学習の意味はない。

「雨」という語は「止まる」ではなく「止む」と一緒に使われるということ、あるいは「止まる」と「止む」は使い方に違いがあるということは、学習

者が知っておかなければならない重要な知識である。

参考文献

- 石井正彦 (2007) 『現代日本語の複合語形成論』 ひつじ書房
- 何志明 (2009) 「香港の日本語学習者の複合動詞習得の現状」 『北研学刊』 通巻第5号, pp.105-115. 広島大学北京研究中心
- 何志明 (2010a) 「香港の上級日本語学習者による日本語複合動詞の習得に関する調査」 『東洋文化研究』 12, pp.491-510. 学習院大学東洋文化研究所
- 何志明 (2010b) 「習得しやすい日本語複合動詞とは何か?—香港人中上級日本語学習者の習得及び使用実態予備調査を通して」 『日本語/日本語教育研究』 1, pp.227-244. ココ出版
- 砂川有里子 (2010) 「コーパスを活用した日本語教育研究」 砂川有里子・加納千恵子・一二三朋子ほか (編著) 『日本語教育研究への招待』 pp.99-119. くろしお出版
- 田中衛子 (1996) 「複合動詞—日本語学習者の教育項目として」 『名古屋大学 日本語・日本文化論集』 4, pp.83-100. 名古屋大学留学生センター
- 田中衛子 (2004) 「類義複合動詞の用法一考—日本語教育の視点から」 『愛知大学語学教育研究室紀要 言語と文化』 10, pp.63-79. 愛知大学
- 松田文子 (2004) 『日本語複合動詞の習得研究—認知意味論による意味分析を通して』 ひつじ書房
- 森篤嗣 (2011) 「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 コアデータにおける初級文法項目の出現頻度」 森篤嗣・庵功雄 (編) 『日本語教育文法のための多様なアプローチ』 pp.57-78. ひつじ書房